



自主・自立 協同 友愛

# 早鞆だより

令和5年12月

早鞆中学校

校長 園田 和臣

## 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問資紙調査」を実施いたしました。

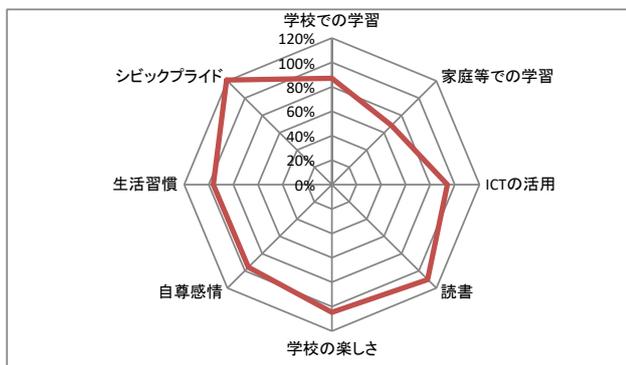
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	目的や場面に於いて質問する内容の検討に関しては全国平均と比べ理解度が少し高かった。「聞き取ったことを基に目的に沿って自分の考えをまとめる力」や「文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する力」が課題である。問題自体は昨年度と比較すると優しいが本文が長い、難しく感じた生徒が多かった。	下回っている
数学	反比例の意味や累積度数の意味の理解は、全国平均とさほど変わらなかった。公立入試に沿った問題が多く、箱ひげ図・証明問題等が課題である。問数の問題を苦手とする生徒が多く、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることや、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題に対応する力が課題である。	下回っている
英語	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる生徒は全国平均とさほど変わらなかった。「聞くこと」に関しては、情報を正確に聞き取る力が課題である。「読むこと」に関しては、社会的な話題について短い文章の要点を捉える分野や未来表現における分野も苦手とする生徒が多い。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



**質問紙調査の結果分析**

- ・「友達関係に満足しているか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」との問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答している。
- ・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」という問いに対して約90%以上の生徒が肯定的に回答している。それに対し、これまでの学習でタブレットを使用した場面がやや少なかったという状況がある。今後の課題として考慮していく必要がある。
- ・「自分にはよいところがある」と答えた生徒の割合が全国平均より20%以上低かった。褒められる場面を作ったり経験をさせたりし、自己肯定感を高める取組を行っていきたい。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

基本的な分野は勿論のこと、単語や決まりについてはどの教科でもきちんと押さえるようにする。自分の考えを相手に伝えるツールとしてICTを活用し、クラス全体で共有できるような場をより多く作っていく。今一度、早鞆中学校の学習の3か条「繰り返そう!」「積み重ねよう!」「自分の考えを伝え合おう!」を基本事項として職員でしっかりと共通理解を図り、基礎学力の定着に、より一層力を入れていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

現在ICTを活用した家庭学習を長期休業中の取組として、環境を整え、進めている。現在、マイトレノートの取組に関して1, 2年生は定着してきているところである。今後は学校全体で進めていくことができるよう、体制を整えていく。